

葛川中学校 第1学年 社会科学学習指導案

日 時 平成26年11月14日(金) 第2校時

場 所 1年A組教室

生徒数 女子2名 計2名

指導者 藤田 真也

1. 単元名 文明のおこりと日本の成り立ち

2. 単元目標

- ・世界の古代文明や宗教が生まれたこと、また、日本列島では狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。
- ・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わり、古墳の広まり、大和政権による統一を通してとらえさせる。

3. 研究主題とのかかわり

本単元は、学習指導要領【歴史的分野】の内容(2)「古代までの日本」における(ア)「世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとの関わりなどを通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。」の内容に位置づけられている。

この時期の日本は、人類の出現から文明の発生へという世界の動きの中で、特に東アジアと深い関わりをもち、さらに稲作の伝来によって、生活の変化、社会のしくみの変化がみられた。紀元前後、つまり弥生時代中期から、西日本の各地では、土地をめぐる激しい争いがおこり、争いに勝った集団は、征服した諸集団を配下において小国家を形成した。2世紀末～3世紀中頃に、それら小国家のうちから台頭した邪馬台国は、その後の統一国家の原形となった。このような国家形成の動きは、漢帝国を中心とするアジアの国際関係のもとで進んでいき、さらに、新しい国家形成の動きが、3世紀末～4世紀にでてきた。すなわち、近畿から瀬戸内海沿岸に突如として造られた前方後円墳に代表される古墳文化は、それまでの小国家の首長から、いっそう大きな権力をもつ王が出現したことを示している。これらの事に関しては、三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、古墳などの遺跡や銅鐸、金印などの遺物の発見による考古学の成果であり関係資料も多く生徒にもイメージを膨らませやすい。そのため本単元は、これらの資料を活用することで、生徒達に、当時の生活の様子を考え、想像させることに適した教材といえる。

本学級の生徒は二人とも授業にまじめに取り組み、学習内容を理解しようとする意欲は高い。家庭学習にも意欲的に取り組んでおり、その取り組みが理解につながっている。その反面、授業中は物静かで自由発言の場面においても自発的な意見交換や発言を行うまでに時間がかかってしまう。また自分の意見を他の意見と比べたりそれを広げて深めたりすることが苦手である。

本単元について生徒達は小学校6年生で「縄文のむらから古墳のくにへ」の単元で「弥生時代(米作り)」「くにづくり(卑弥呼)」「古墳時代(大和朝廷)」を学習している。また、基礎的な事項も答えることができ、小学校で身につけた知識を生かすことができているといえる。ただ歴史分野の学習は、まだ日が浅く、資料から社会的事象を読み取り、考える力が弱い。

本校の研究主題は「子どもが楽しく学び合うための小中学校の一貫的な教育のあり方～児童生徒の連続的な学びと伝え合う力の育成をはかるために～」である。社会科では、教室後方に作業机（学びのスペース）を利用した授業を一学期から授業に取り入れることで、協力して調べ、考え、まとめそれを発表できる授業を展開していきたいと考えている。本単元では、学びのスペースにおいて史跡の写真、史料の読解、実物教材の提示をするなど、歴史に対し、興味関心を持ち思考できる場をつくっていききたい。

4. 評価規準

関心・意欲・態度	資料活用の技能	思考・判断・表現	知識・理解
古代文明や宗教のおこり、日本列島における人々の生活のあらましに対する関心を持ち、意欲的に学習している。	古代文明や宗教のおこり、日本列島における人々の生活の変化、大和政権による統一などについて、様々な資料を活用している。	金属器の使用、灌漑、文化の発生などから、古代文明の特色をとらえ、日本の社会に与えた影響について考察している。	古代文明や宗教が生まれたことや、その時期の日本列島における人々の生活の変化を理解している。 東アジアとの関わり、古墳の広まり、大和政権による統一など、国家が形成されていったあらましを理解している。

5. 単元の指導計画（全9時間）

過程	○学習活動	◆評価規準 【評価の観点】
1	○人類の出現と進化 学習目標 人類が進化してきた過程や人類の特徴を理解する。	◆人類の始まりや、祖先について興味を持つ。 【関心・意欲・態度】
2	○新石器時代 学習目標 旧石器時代と新石器時代の特徴が分かる。	◆旧石器時代と新石器時代の特徴について資料を使って説明できる。 【技能】
3	○農耕・牧畜の始まりと文明のおこり 学習目標 農耕・牧畜によって社会が変化し文明がおこったことに気付く。	◆世界中のどのどのような地域に農耕や牧畜が起こったかを資料をもとに考えることができる。 【技能】 ◆資料から農耕と牧畜の始まりにより、身分などの格差が出ていたことが分かる。 【思考・判断・表現】

4	<p>○文明の発展と宗教のおこり</p> <p>学習目標 古代文明の特色を、生活技術の発達や文字の使用などを通して理解する。</p>	<p>◆文字や金属器の使用など、世界各地でおこった文明の共通点について考察している。 【思考・判断・表現】</p>
5	<p>○中国の古代文明</p> <p>学習目標 中国の古代文明の特色を理解する。</p>	<p>◆中国の古代文明について、殷から漢までの大きな流れを理解している。 【知識・理解】</p>
6	<p>○縄文文化と弥生文化</p> <p>学習目標 縄文、弥生時代の人々の生活の様子を、考古学の成果を活用しながら具体的に理解する。</p>	<p>◆様々な資料から、日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特色をとらえている。 【技能】</p>
7	<p>○国の誕生と日本の変化（本時）</p> <p>学習目標 資料から、弥生時代の日本について考えることができる。</p>	<p>◆様々な遺物や遺跡などから、弥生時代の人々の生活に関心を持っている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>◆中国の文献などから、国家が形成されていく過程について考察している。 【思考・判断・表現】</p>
8	<p>○邪馬台国の女王</p> <p>学習活動 邪馬台国など日本の国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わりを通してとらえる。</p>	<p>◆中国の文献などから、邪馬台国の様子について考察している。 【思考・判断・表現】</p>
9	<p>○大王の時代</p> <p>学習目標 大和地方を中心に国内が統一されたことを、古墳の広まりを通して理解する。</p>	<p>◆地域に残る古墳や渡来人に関係する地名などに関心を持っている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>◆遺物・遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色をとらえている。 【技能】</p>

	●金印があった時代の日本を読み取る。	『漢書』『後漢書』の記述を提示する。 〈期待する答え〉 中国に使いを送り、奴国は金印をもらった 100余りの国にわかれていた 大いに乱れていた	○ ○		日本について書かれているところに印をつけさせる
課題2 当時の日本の国にとって金印とはどんな意味があったのだろう。					
まとめ	●課題2について自分の意見や他の意見を元に考えを深める。 ●今日の授業でわかったことを書く。	〈期待する答え〉 中国と仲良くしている証拠 戦いになった時、助けてもらうため ●自分の席に戻し、まとめのプリントを書かせる ◆中国の文献などから、国家が形成されていく過程について考察している。 【思考・判断・表現】	○		自分の意見を付箋に書かせて整理させる。

(3) 授業の観点

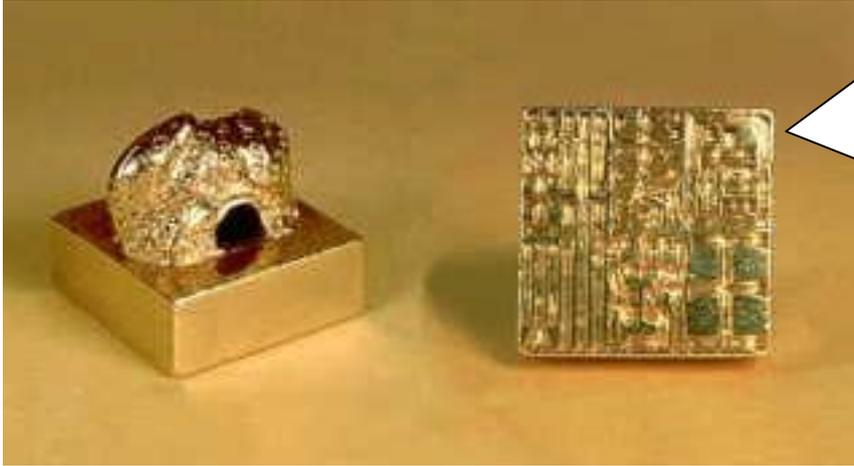
今回の授業では、展開の中で教室後方にある作業机（学びのスペース）にて「学び合い」を設定している。付箋やホワイトボードなどのツールを利用することで、生徒達がよりスムーズに自分の考えや意見を出し合い、自分の考えをまとめていきたいと考えている。生徒達が課題に対し、考えを深めていく姿を見ていただきたい。

また、生徒2人というクラスにおいて、学び合いを成立させるためには教師のサポートが重要となる。学び合いの中で2人の考えをつないだり、共に考えたりする教師の動きにも注目してもらいたい。

歴史プリント7

7 国の誕生と日本の変化

目標 資料から弥生時代の日本について考えることができる



漢委奴国王

『漢書』地理志

(紀元前1世紀ごろ) 楽浪郡の海のかなたに倭人がいて100以上の国をつくり、なかには定期的に漢に朝貢する国もある。

『後漢書』東夷伝

建武中元2年(57年)に倭(委)の奴国が後漢に朝貢したので、光武帝は印綬(印とそれを結びとめるヒモ)を送った。・・・桓帝と靈帝のころ(2世紀)、倭(委)は大いに乱れ(長い間代表者が定まらなかった)

授業から学んだことを書きましょう
